

秋田の文化史年表

■明治の文明開化から太平洋戦争までの文化のあゆみ■

〔本文中の最上段は国のおもな動き〕

明治

- 明治2年 電信初めて架す
 明治3年 わが国最初の日刊紙
 刊行（横浜毎日）
 明治4年 新式郵便開始
 明治5年 東京―横浜鉄道開通
 学制頒布小学校開校
 明治7年 西洋紙が製造される



- 明治元年（一八六八）
 ○戊辰役始まる
 明治二年（一八六九）
 ○藩主が藩籍奉還願出。佐竹義亮が藩知事となる
 ○千浦善五郎が八橋の採油に着手し、製油所を営んだ（本県石油事業の初め）
 ○院内、生保内、長走等の十三國境関門を廃止した
 明治三年（一八七〇）
 ○東成瀬村の手倉芝居がこのころから巡業して有名になる
 ○明德館を藩学校と改称した
 ○秋田藩の政庁を下中城に移す（浪江内膳邸）
 明治四年（一八七一）
 ○廃藩置県、秋田県が誕生した
 ○久保田を秋田町と改めた
 明治五年（一八七二）
 ○県内に郵便開始。久保田郵便役所設立
 ○横手風俗人形がこのころから販売された（中山人形）
 ○千浦善五郎が自宅（秋田）に石油ランプを点じた。通行人がその光の強さに目をおおう
 ○五巻小学校をはじめ県内に六十の小学校ができた（五巻小学校は秋田市旭北小学校の前身）
 ○ビールが秋田にも出初める
 ○椅子、テーブルを県庁で用いた（椅子テーブルによる事務の初め）
 ○漁業取締の規則ができた（秋田県漁業規則）
- 秋田伝習学校、英語学校開校
 ○県庁示達文書に活字を用いる
 明治七年（一八七四）
 ○伝習学校を太平学校と改称、英語学校も合併した
 ○遐邇新聞創刊。秋田魁新報の前身
 ○このころからベン、インキを用いはじめた
 ○県立秋田病院設立
 明治八年（一八七五）
 ○秋田ふき刷りが考案された
 ○洋服の着用と巻タバコが流行しだした
 ○県立医学校が秋田に開校（乙種医学校の初め）
 明治九年（一八七六）
 ○無検印の度量衡使用が禁止された
 ○秋田町に『消防勇組』が設置された（本県における完備した消防組織のはじめ）
 明治十年（一八七七）
 ○医師川瀬玄探らが私立大館病院創立（公立大館病院の前身）
 ○夜の芝居興行を当分許可せずと達せられていたが、この年から夜間興行が許可された
 明治十一年（一八七八）
 ○秋田県種子交換会が開催された（現在の種苗交換会のはじめ。石川理紀之助の尽力による）
 ○太平学校を秋田県師範学校と改称した
 明治十二年（一八七九）
 ○秋田公立書籍館創立、翌年開館（秋田県立図書館の前身）